

さて、おはようございます。日曜日の朝の、第二礼拝へようこそ。私たちは、二つの礼拝を行っています。第一礼拝は「聖書の預言・アップデート」で、第二礼拝は、聖書の節ごとの「聖書の学び」です。今日は、「テトスへの手紙」です。使徒パウロからテトスへの手紙、この書を学びます。主の御心であれば、今日は1章を終えます。御言葉箇所は、9節から16節までです。まだの方は、その聖書箇所をお開き下さい。ここにお越しの方で、可能な方はお立ち下さい。無理な方は、座ったままでも結構ですが、私が読むのに合わせてください。

9節から、使徒パウロが聖霊によってテトスに宛てた手紙で語っています。

テトスへの手紙

「教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。健全な教えをもって励ましたり、反対する人たちを戒めたりすることができるようになるためです。」－9節－

「実は、反抗的な者、無益な話をする者、人を惑わす者が多くいます。特に、割礼を受けている人々の中に多くいます。」－10節－

「そのような者たちの口は封じなければなりません。彼らは、恥ずべき利益を得るために、教えるはならないことを教え、いくつかの家庭をことごとく破壊しています。」－11節－

「クレタ人のうちの一人、彼ら自身の預言者が言いました。『クレタ人はいつも嘘つき、悪い獣、怠け者の大食漢。』」－12節－

「この証言は本当です。ですから、彼らを厳しく戒めて、その信仰を健全にし、」－13節－

「ユダヤ人の作り話や、真理に背を向けている人たちの戒めに、心を奪われないようにさせなさい。」－14節－

「きよい人たちには、すべてのものがきよいのです。しかし、汚れた不信仰な人たちには、何一つきよいものはなく、その知性も良心も汚れています。」－15節－

「彼らは、神を知っていると公言しますが、行いでは否定しています。彼らは忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。」－16節－

これはもはや、解説の必要がありません。ここで、お祈りして終わってもよいくらいです。祈りましょう。主よ、今朝、私たちの前に開かれたこの御言葉の理解を深めるために、聖霊の切なる助けが必要です。主よ、それが私たちがここにいる理由です。私たちがここにいるのは、御言葉を通して、あなたが私たちの人生に語りかけてくださることを聞くためです。主よ、聖霊が、私たちの心がさまようことなく保ち、集中させて下さるようお願い、祈ります。敵は、私たちの心をそらし、今日、あなたがご用意下さったあなたの御言葉から遠ざけることしか考えていません。ですから、主よ、お語りください。あなたのしもべは聞いています。イエスの御名によってお祈りします。アーメン、アーメン。

ご着席下さい。ありがとうございました。今日は、私たちがどのような人間であり、クリスチャンとしてどのように行動しているのかについて、正直に自問することの重要性についてお話したいと思います。今日の御言葉は、神の御言葉の中でも、なぜこの聖句を聖書に載せておられるのか問うのに適した箇所の一つだと思います。同意してくれますか？ 皆さんも私と同様だと思いますが、ここはさっと読み過ぎてしまいがちな箇所の一つです。彼はたくさんの名前を挙げ、その教会で抱えていた問題を明らかにしています。ですから、それは必ずしも今日の自分に当てはまるとは限りませんが、しかし問題は、テモ

テへの手紙第二、3章16節にあるように、すべて御言葉は神の靈感によるものであり、教えと戒めと、私たちはあまり好きではありませんが、矯正と、義の訓練の為に有益だということです。だからこそ、ここには理由があるはずなのです。ですから、「なぜ聖書の中にこの御言葉があるのか？」と自問すべきです。その理由の一つは、当時の教会に問題を起す人がいたように、今の教会にもトラブルメーカーがいるからだと思います。隣に座っている人を見ないでください。もちろん、皆さんではなく、他の教会の話です。皆さんは♥完璧です。そう慌てずに……。この箇所をどう教えればいいのか、主にお尋ねしたところ、いくつかの質問を投げかけることでアプローチすべきだと示唆されました。実際には10の質問がありました。自分自身に正直に問いかけることで、聖霊が私たちの心を探るために、自由にアクセス下さる状態にするための質問です。話を始める前に、前置きとしてもう一つ言いたいことがあります。説教を聞いたり、神の御言葉のもとにいると、どのようになるか知っていますか。あなたはすぐに、他の誰かがこれを聞くべきだ、と考える傾向があります。私がそう言った瞬間、誰かを思い浮かべたわけではありませんか？「ああ、これは良い、彼らにリンクを送ろう。彼らがこれを聞く必要がある。」そうなるでしょうか？正直になりましょうよ。この問題点、今日の説教のタイトルからして、私が何を言おうとしているのか、もうお分かりだと思います。多分、私自身こそこれを聞く必要がある者だと思います。「箴言」のような書を読めば良く分かります。本当に良い例です。木曜日の夜の旧約聖書の学びで、「箴言」はすでに学びました。箴言の中の「対照的な箴言」を見ると10の義人と悪人が対照的に描かれている章です。その箴言には「正しい人はこれをするが、悪い人はこれをする」という趣旨のことが書かれています。そして私たちは、敬虔さと憤りの中で、憤りを感じるのです。「彼らは邪悪な人たちだ！ 私は、そんなことは絶対ない。」それはあなたです。あなた！ それは聖霊です。預言者ナタンは、あなたの人生の中でこう言います。「あなたがその男です。あなたがその女です。」というわけで、前置きが長くなりました。お帰りになりたい方は今です。頭を下げて目を閉じてますから……。抜け出しても気づきませんし、何も言いません。私たちはあなたのために祈るだけです。まず、1つ目から見ていきましょう。9節にあります。ここには、私たちが正直に自分自身に問うべき質問があります。”私は争う者なのか？”パウロは、長老の資格について語りながら、健全な教義に逆らう者に意義を唱え、反論するようと言っています。これは、当時の教会の長老たちの、先制的で決定的な行動です。彼らはただ放っておいたわけではありません。真っ向勝負。面と向かって、目と目、腹と腹を割って、いわば相手に挑むのです。その理由は、健全な聖書の教義に反対する者が多かったからです。ちなみにそれがパウロがテトスをクレタ島に残した理由の一つです。このような問題やトラブルメーカーに対処するため、長老を任命したのです。反対意見も多かったようですが、ただ喧嘩をしたいだけの人たちからの反対もあったようです。私が何を言っているかわかりますか？ つまり、彼らは議論することだけを探すのです。もし当時にSNSがあったら、聖霊はパウロに何を書かせられたただろうかと考えてしまいます。それについて考えてみてください。それがソーシャルメディアの現状だと思いませんか？ 以前にも言ったので、飽き飽きされずに聞いてほしいですが、SNSでのクリスチャンの投稿に、率直に言って、嘆き、恥ずかしくさえ感じます。イエス・キリストの教会が今のような状態になっているのは不思議なことではありません。疑問に思っていたことを、自分自身に問いかけてみたのは、もし私がそのような投稿をしたとしたら、相手を名指しで議論をした後に、どうやってその人にイエス・キリストを伝えることができると思えますか？ ぶっ飛びます。なぜなら、私たちが生きているこの時代に、できるだけ多くの人々をイエスのもとへ、そしてイエスをできるだけ多くの人々のもとへ、導くための時間は、ほとんど残されていない、本当に時間がない、

というのが事実ではないでしょうか。ある人の仰ったことが好きです。「多くのクリスチャンは、キリストの広告塔としては最悪だ。」私たちは使節です。私たちはクリスチャンとしての代表者です。こんにちのクリスト教会には、議論を求めているのか、答えを求めているのかを見分けられる、識別力という失われた宝石があると思います。もし誰かが議論を求めているのなら、ソーシャルメディア以上のものを探する必要はありません。実際、生理学的な説が背後にあります、もっと重要なのは、霊的な説が背後にあるのです。これは霊的な戦い、霊的な戦争であり、私たちの格闘は血肉に対するものではありません。(エペソ 6:12 参照)

この人は純粋に答えを求めて質問しているのか、それとも実際に争いを求めているのかを、見極める必要があるのです。テトスは、クレタ島で、多くの言うなれば敵対者を相手にしていたようです。これは、10 節の最初の部分にある 2 つ目の質問につながります。”私は反抗的なのか？” 答えではなく、また議論を求める敵対者が多くだけでなく、反抗的な人も多かったのです。反抗的であるということは、権威に従ったり服従したりするのを嫌がっているのだと理解することが重要です。私の本土での長年の経験から言うと、もちろん、ここでの例を使うことはありません。これは、私が牧師をしていた時もしていなかった時も経験したことです。人々が権威に従わず、反抗的な霊があるような教会は、あなたがいたいと思う教会ではありません。癌のように広がる可能性がある所以对処し、立ち向かわなければなりません。このように、パウロはこの問題に真剣に取り組んでいます。または、前置きが長くなりますが、とても容易いということをお伝えしたいと思います。あなたの知っている人の中で、反抗的な人、敵対する人、いつも争いを求めている人について考えてみましょう。しかし、悪しき思いがないかどうか、聖霊に私たちの心を探ってもらうことはとても大切です。そして、もし主が、私たちのクリスチャン生活に住み着いた何かを見つけたなら、主はとても優しく対応してください。主にしか御出来にならない方法で、それに指を置いていただき、それを取り除いていただきましょう。彼に取り除いていただかなければ、それがあなたを滅ぼしてしまうからです。それはあなたの人生を破壊するでしょう。あなたの結婚生活を壊します。あなたの人間関係を壊します。これをがきっかけで、教会が滅ぼされるのを見てきました。私はこの件で牧師が滅ぼされるのを見てきました。これをきっかけに結婚生活が破綻するのを見てきました。このために、神や神の事、神の教会と関わりたくないと思う子どもたちを見てきました。本当に考えてみると、世はこれを見て、これに対して、「いいえ結構です。」と言っているのではないのでしょうか。いいえ結構です。教会とはそういうものなのではないのでしょうか。それがクリスチャンの互いへの接し方なのではないのでしょうか。

3 つ目。これは大物です。10 節の後半部分です。”私はおしゃべりなのか？” 「いや、そうではありません。でも、そうなんです。彼らが来るのが見えると、反対側に行かないと 2 時間も立ち往生してしまいます。」必ずしもそのような話ではありません。聞いて下さい。パウロは彼らのことを「無益な話をする者」だと興味深い表現をしています、これには 2 つの意味があると思います。1 つ目の意味は、しゃべりすぎることです。そして 2 つ目は、しゃべりすぎると言っても、意味のあることは何も言っていない、ということです。皆さん意味がわかりますか？ ただひたすら話して、話して、話しまくって、そして喋って喋って喋って喋り続けて、本当は何も言っていない、ただ話しているだけで、今私が言うように、同じことを繰り返しているだけです。この人たちは、基本的に何も言うべきことを知らない、何の価値もないおしゃべりです。自分自身の話を聞きたいがために、しゃべっているようにしか思えません。それだけでなく彼らは、あなたが言うべきことよりも、自分が言うべきことの方が重要だと信じている人たちで

す。そういう人と会話していると、どうですか？ こう言った瞬間に誰かを思い浮かべたでしょうけど、それはそれでいいんです。実際、あなたが話さないのは、相手がしゃべりずめなので、あなたが言葉を発することができないからです。話して、話して、話して、話して、話して、そして、あなたが丁寧に話そうとしても、相手は何も言っていないので、実際には聞いてさえいないのです。で、うーんとか、あーとか、そうとか相づちを入れようとするわけですが、適当な場所に入れようとして、失敗してしまいます。彼らはあなたを捉まえ、こういいます。「待って、あなたに聞いているのよ。」「すみません、何とおっしゃいましたか？」「実は、あなたは何も言ってなかったのよ、聞いていなかったんです。」その後、彼らはあなたに話させましたが、話している間、彼らが何をしているかわかりますか？ 次に何を言おうか考えているのです。あなたの話は聞いていません。私が言いたいのは、この問題の核心にあるのは霊的なプライドだということです。自分が他の人よりも重要であると思ひ込むこと、自分を必要以上に高く評価することです。

4つ目の質問。“私は騙されているのか？” 10節の3番目の部分です。実際に私はそれを変えました。最初、質問はこうなるはずでした。「私は人を欺く人間でしょうか？」「私は騙されているのか？」と変更した理由は以下の通りです。「騙す人は、騙されるから騙す。」言葉遊びではありません。もう一度やってみましょう。それは、私の説教メモにはありませんでした。それが最初の失敗でした。だからこそ自分のメモに忠実でなければならないのです。騙されたらどうなります？ あなたも騙しますよ。もしあなたが、意識することなく騙されているなら、あなたが騙すことになります。なぜでしょうか。それは、あなたが騙されているからです。騙す人は騙します。そこで質問ですが、これは良い質問で、私たちは自分自身にこの質問をする必要があります。私は騙されているのだろうか？ ここでパウロは、無益な話に終始している人たちに、欺瞞を加えています。特に割礼派の人たちのことを指しています。これが誰なのか分かりますか？ これらは、パウロがテトスに警告していたユダヤ人です。この人たちはトラブルの元凶でした。彼らは人を騙す人でした。彼ら自身も騙されていて、信者の全家庭を騙し、混乱させていたのです。それは11節の最初の部分での、次の質問です。“私は破壊的なのか？”パウロが、教えるべきでないことを教えて家庭を崩壊させた人々について言及しているのは興味深いですね。

実のところ、いつの時代も自分は知識がある、物知りだと自惚れている人はいるものです。ああ、何を言っても無駄です。彼らはすべてを知っているからこそ一つや二つのことを教えてくれるのです。すべてを知っている人たちの真実とは何でしょうか？ 知識が膨らむ、膨らむだけでなく、混乱を招くこともあります。

6つ目の質問。正直な質問です。“私は不正直なのか？” 11節の後半です。パウロの言う不正直な利得とは、確かにお金や金銭的な利益を目的としていた人に当てはまります。悲しいことに、こんにちそれには事欠きません。しかし、それはフォロワーを増やすことにも当てはまります。繰り返しになりますが、聞いてください。どういうことなのかというと、クレタ島では、弟子を自分のもとに引き寄せようとする者がいました。パウロが「使徒の働き」で言っているように、彼らは羊の皮をかぶった狼です。

「使徒の働き 20章 25節から 31節」を読みたいと思います。お手持ちの聖書で、その箇所を見て下さい。これはおそらく、使徒パウロの激しさに関して、聖書の中で最も感情的で力強ささえ感じさせる箇所でしょう。彼は、別れを惜しんでいます。彼は、これが彼らに会う最後になることを知っています。これが彼の最後の言葉であり、心に響くものがあります。25節の彼の言葉を聞いてみましょう。

使徒の働き 20章

「今、私には分かっています。御国を宣べ伝えてあなたがたの間を巡回した私の顔を、あなたがたはだれも二度と見ることはないでしょう。」—25 節—

「ですから、今日この日、あなたがたに宣言します。私は、だれの血に対しても責任がありません。」—26 節—

「私は神のご計画のすべてを（神の御言葉の全てを）、余すところなくあなたがたに知らせたからです。」—27 節—

そして、ここに警告の 28 節があります。

「あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。」—28 節—

「私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。」—29 節—

そして、この 30 節ですが、これを見ると、私の首筋に残っている、わずかな毛が逆立ちます。

「また、あなたがた自身の中からも、（この教会からも）いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。」—30 節—

「ですから、私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。」—31 節—

神に靈感を与えられて、ルカがこれらのパウロの言葉を特に、この 31 節を書いてくれたことがとても嬉しいです。使徒パウロの心の中を垣間見ることができます。今、彼が言ったことを聞きましたか？ 3 年間、毎日、毎晩、一日中、昼も夜も、泣きながら、自分が去った後、彼らの中から狼が入ってきて、群れを荒らすだろうと警告したのです。狼を見分けて判断して見抜く方法は、狼は、弟子たちを自分のところに引き寄せることです。ここでは、それがどのように見え、どのように聞こえ、そしてどのような匂いがするかが書かれています。学びの後、礼拝の後、誰かがあなたに近づき、「へい〜！」と言ったら、匂います。すぐに、その場で、要注意です。彼らは実に滑らか〜で、とても霊〜的な印象を与えます。強調してみました。彼らは、「うわー、本当にいい教えだった！」という趣旨のことを言うでしょう。「ええ、本当に良かったです。」（どうもありがとございました！— 冗談です。）しかし、ここからが問題です。

「本当に御言葉を深〜く学びたいのですか？」「どういう意味ですか？」「ああ、聖書の勉強会があるんですよ。本当に深く御言葉に触れたい人だけのためのものです。」それは狼です。それはオオカミです。弟子を自分に引き寄せて、自分の後に続く信者を得ようとする…。それは不正直で、卑劣で、恥ずべきことです。12 節と 13 節、これは面白いですね。私たちの評判に関係しています。「箴言」の中に、

「名声は多くの富より望ましく、愛顧をうけることは銀や金にまさる。」—22:1—

という言葉があることを思い出します。ここで質問です。“私は評判が悪いのか？” ここでパウロは、その当時言われていたことに言及しています。ある解説者は、クレタ人は、嘘つき、悪い獣、怠け者の大食漢であるという評判に関し、これで知られていた人物の名前を挙げています。彼らはそれほど評判が悪かったので、人々は「あなたは本当にクレタ人だ！」と言うような使い方をしたのです。それは褒め言葉ではありませんでした。なぜなら誰かをクレタ人と呼ぶことは、その人が嘘つきで、大食漢で、野蛮で、残忍で、怠惰だと言うことだからです。いかがでしょうか？ 「このクレタ人め！」うわあ、かなりヤバイですね。でも、知っておいてほしいことがあります。パウロはテトスに、“彼らと何の関係も持たないように”とは言っていないことに注目してください。彼らを争いや問題を引き起こす反抗的な敵対者のよ

うに扱うべきとは言っていません。彼らと向かい合うべきだと言っているのです。しかし、パウロはここでテトスに、彼らと関わりを持たないのではなく、彼らを鋭く非難するようと言っています。彼らを叱りつけるためではありません。彼らが健全な信仰の教義に至るためです。それが目的なのです。彼らを鋭く非難する必要がありますが、彼らが信仰において健全になることを念頭に置いています。パウロがコリント人へ書いた言葉を思い出します。説得力がありますし、そうである必要がありますが、これは肉体的な教会、世俗的な教会でした。パウロが最初の手紙に書いていることによると、彼らは自分たちがすべてだと思っていたようです。パウロは、テトスが、現地の教会で任命する長老達に言っている様に鋭く叱らなければなりません。ここで、彼らにこう言っています。「あなたも彼らの一人だったことを思い出してください。」その背景をご存知ですか？ 彼はコリントにいる人々のことを言っているのです。彼らは同性愛者や、放蕩と快楽主義の生活をしている人たちでした。彼は、あなたがたがキリストに辿りつく前は、何人かがそうだったと語っています。そして、誰かがあなたを気遣ってくれて、鋭く叱ってくれるほど愛してくれたからこそ、あなたは真理に気づき、キリストのもとに来たのです。それが、あなたが彼らに対してやるべきことです。私たちはそれが好きではありませんよね？ なぜだか分かりますか？ なぜなら私たちは人に好かれたいからです。鋭く叱責すると、友達をやめたり、フォローを外したり、ブロックされたりするでしょう？ 14 節の 8 つ目の質問に少し時間をかけてみたいと思います。”私は律法主義なのか？”という質問です。繰り返しになりますが、これはデカイです。律法主義がどれほど危険なものかについて、決して言い過ぎることはないと思います。なぜそのように言うかという、律法主義には人々を律法の下に引き戻し、束縛するという性質があるからです。さらに一歩進んで、律法主義は、十字架上の完成した御業を否定するような、冒涇に近い危険なものだと言わせて頂きます。なぜなら、律法主義は次のように言っているからです：「完了した、そして～～完了した、もし～～すれば。完了した、しかし～完了した、～～する時。律法主義のもと、律法的な要求を加え、それはまだ完了していないとるので。それは神への冒涇です。それは神への冒涇です。(※イエスは十字架上で、「完了した」と言われた。)(ヨハネ 19:30)

それは、救い主自身の顔に平手打ちをするようなものです。決してそうならないように。律法主義は文字通り、殺し屋です。律法は殺しますが、御霊は命を与えます。私は出エジプト記の中で、モーセがシナイ山から律法を持って降りてきた時の話を思い出します。覚えていますか？ 3,000 人が死にました。ここでモーセが十戒、二つの石板を持っているのですが、彼らは既にこの掟を破ってしまっており、さらに象徴的に石板そのものも壊れてしまったのです。律法が下された時、3,000 人のイスラエル人が死にました。早送りして「使徒の働き」で聖霊が下ったときは、3,000 人が救われたとあります。これは偶然ではありません。律法は殺します、律法主義は殺します。御霊は命を与えます。

9 つ目。”私は墮落しているのか？” この 15 節でパウロは、思考と良心が墮落した人たちがいて、そのために見るものすべて、見る人すべてが墮落していたと言っています。墮落している人にとって、すべてのものは墮落しているのです。しかし逆に、キリストの純粋さと自由さの中で歩んでいる人にとっては、律法主義者が禁じるようなすべてのことが純粋で許されていたのです。少しだけ説明させてください。この件に関しては、層を剥がすともっと多くのことが見えてきます。誰かが嘘をつくとどうなるか知っていますか？ 病的な嘘つきという言葉があります。つまり、プロの嘘つきです。嘘の博士号を持っている人たちです。嘘をつくのがとても得意なので、自分の嘘を信じてしまうのです。それは嘘つきです。どうやら、パウロが言うように、クレタ島にもそういう人たちが結構な数いたようです。でも、もしあな

たが嘘つきだったら・・・あなたではありません。皆さんのことではありませんよ。たまたま指をさしてしまうと、そこの人たちがみんな椅子の下に潜り込んでしまうので、気をつけなければなりません。それはしません。ここでは、こうします。(のべなく指さす) 私は大まかな話をしています。もちろん仮定的に、修辭的にです。あなたが嘘つきなら、他の人のことも嘘つきのように見ませんか？自分が嘘つきで、誰かと話していると、自分が嘘つきだから、相手も嘘つきだと思ってしまう。そして、それは双方に作用します。自分が正直で誠実に歩んでいれば、自分の思考が墮落していないので、他の人も誠実に歩んでいると素朴に信じます。あなたはそのようには考えません。自分が正直で、嘘をついたり騙したりしないから、相手もそんなことはしないだろうと思います。いいえ、彼らはそれをするでしょう。實際既にそうです。クリスチャンは時々、とても騙されやすく、世間知らずなところがあります。何年も前のことですが、再度、本土からの描写しか使いませんが、実は、これは私が牧師になって教会を始める前の話です。私は事業をしていました。これはクリスチャン・ビジネス・ディレクターが大流行していた頃の話です。クリスチャンが経営する企業の名簿です。結局のところ、クリスチャンとビジネスをしたいですよね？家族の絆を大切にするために。私たちは世の塩と光であるべきなので、それは正しいとは思えません。もし私がクリスチャンとしかビジネスをしないのであれば、私はどうやって世の証人になることができるのでしょうか？ 実は、あることを共有したいと思います。これは聖霊の業かもしれませぬ。再度、何年も何年も前、私の髪を担当してくれた人が、私の髪を使って説明していますが、ご容赦ください。彼が辞めてしまったので、美容院を探していました。当時の私は髪の毛の量が多く、私の髪の毛は簡単には切れない髪の毛なのです。実は、本来ならば造園業者を探すべきだったのですが、-(笑)- 本当に必要なだったのは...そこで私は祈って、よし、クリスチャンではない美容師を見つけて、彼らに証しをしたいと思いましたもちろん、あまりいいスタートではありませんでした。ある時、私は店に入りました。"予約なしでも歓迎"という広告があったのを覚えています。私は大きなアフロでした。中に入ると、彼は私を見て、「今満員です。」と言いました。実は私、そのことがとてもトラウマになっているんです。それで、美容師を探していて、祈ったんです。そこで当時...これをいうと私の世代が分かっただけですが、それは何年も前のことで、遠い遠い昔々・・・電話帳で調べました。電話をかけ始め、尋ねました。私のような髪質に精通していて得意な美容師が必要なのです。基本的には、ブリロパッド(たわし)をカットできるような。そこで、いくつか電話してみたところ、彼らの信用のためにも、正直に答えてくれました。彼らは「ああ、特に誰もいないのです。」と言っていました。「予約なしでも歓迎」という看板があるのに？ とにかく!!! リストの次の番号に電話をかけました。案の定、ある店に連絡を取ったところ、彼女は「あなたにぴったりの人がいます」と言ってくれたので、予約を取って店に行きました。彼女は私の髪を切り、素晴らしい仕事をしてくれました。さらに何度か通い、彼女と知り合いになり、その結果、彼女は人生をキリストに捧げました。このことを共有したかったのは、私たちが塩と光になるなら、私たちはこの世にいても、この世に属してはいません。そうでしょうか？ しかし当時は、騙されやすいクリスチャンを捕まえてビジネスにつなげるために、電話帳の広告に魚マーク(クリスチャンマーク)を載せるような人もいました。そして、彼らは "すってんてんにする" だけです。彼らはクリスチャンではありません。しかし、彼らはクリスチャンが忠実で騙されやすいことを知っており、他のクリスチャンとビジネスをしたいと考えていました。「ああ、あなたもクリスチャンなんですか?」「そうなんですよ～～🐱」あの日、クレタ島にいた人たちは、こんにちも健在だと言っても過言ではありません。最後の質問ですが、残りの時間を 16 節のこの部分に費やします。他の質問で、私はもうお仕上げです。ここま

で順調だという方はこれは無理でしょう！ 私にも無理でした。”私は不従順なのか？”この人たちは忌まわしく、不従順で、失格者である、とパウロが力を込めて書いていることに注目せざるを得ません。わお～ 従順であることは、忌まわしいレベルにまで達し、不従順であることは、失格の原因になるのでしょうか？ 間違いありません。サウル王を思い浮かべてください。最後に、サムエルがサウル王と対峙し、サウル王を鋭く叱りつけたという記述で締めくくりたいと思います。しかしその前に、もうひとつ質問があります。一緒に考えてほしいのです。それは巧妙な質問ではありません。最初はそう思えるかもしれませんが。質問はこうです。あなたや私が神に与えることのできるもので、神が必ずしも既に持っておられないものは何でしょうか？ 何でも持っている人にどんなプレゼントを贈ろうかと悩むのはよくあることですよね。神はすべてを持っておられます！ — いいえ、そうではありません。神が必ずしも持っておられないものとは？ ”私たちの従順さ”です。神の心を祝福するために、私たちが神に捧げることができるものは何ですか？ 私たちの従順さです。だからこそ、従順さは捧げ物よりも優れているのです。それは第一サムエル記の15章にあります。ご覧ください。17節から23節までを読みたいと思います。繰り返しになりますが、非常に身につまされる内容です。私たちは、聖霊に自分の心を探ってもらうのが良いと思います。

第一サムエル記 15章

「サムエルは言った。『あなた（サウル）は、自分の目には小さい者であっても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。主があなたに油を注ぎ、イスラエルの王とされたのです。』—17節—

「主はあなたに使命を与えて言われました。『行って、罪人アマレク人を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え。』—18節—

「なぜ、あなたは主の御声に聞き従わず、分捕り物に飛びかかり、主の目に悪であることを行っただけですか。』—19節—

そして20節。サウルはサムエルに向かって、彼の弁解と応答を聞いてください。

「サウルはサムエルに答えた。『私は、主の御声に聞き従い、主が私に授けられた使命の道を進みました。私はアマレク人の王アガグを連れて来て、アマレク人たちは聖絶しました。』—20節—

「兵たちは、ギルガルであなたの神、主にいけにえを献げるために、聖絶の物の中の最上のものとして、分捕り物の中から羊と牛を取ったのです。』—21節—

翻訳すると、「私は神が私に命じてくださったことの”全ては”しなかったことを分かっています。」「私は、ちょっとした不従順をしてしまって、このちょっとした部分で、ほんのちょっとしたことです。」

先週私たちは、この話をしましたよね？ 木曜の夜だったでしょうか？ 私たちはもう罪を罪と呼びたくないのです。私たちはそれを取り除き、柔らかくして、罪を”問題”と呼びます。「ちょっと私には問題があつて。。。」違います！あなたには罪があります！罪と呼んでください。なぜなら、あなたがそれを罪と呼ぶなら、神はそれを許し、清めることが御出来になるからです。それを問題と呼ぶなら、あなたが言っていることはこうです。「放っておいて。ちょっとした問題でしかないから。それがサウルがここでやっていることです。」「頼むよ～大丈夫さ、サムエル。何を騒いでるんだ？」「分捕り物から少し取っただけで、もちろん主に捧げるためなんだから、その何が悪いのですか？」それについて言葉があります。その言葉を知っていますか？ 私たちはそれが得意です。準備はいいですか？言いますよ。それを正当化といいます。私たちはそれを正当化します。「あ～大丈夫！」と私たちは自分の不従順と罪を正当化します。さて、サムエルの応答ですが、22節です。

「サムエルは言った。『主は全焼のささげ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに 喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。』」—22 節—

「従わないことは（お聞きください） 占いの罪、そういえば、彼はそんなことをしていましたよね。高慢は偶像礼拝の悪。」（ちょっとここで止めます。）

何ですって？ 高慢？ —はい 私も高慢（頑固）なところがあります。皆さんも同じでしょう。私を清らかな目で見ないでください。私たちが高慢なとき、それは不義や偶像崇拜のようなだと理解していますか？ それは良くありません。それは本当に悪いことです。あるいは、私たちが言うように、めちゃ悪い！めちゃくちゃ悪い！です。高慢（頑固）私たちは、高慢とは考えません。ちょっと頭が固いだけなんです。残念ですが、あなたは不義と偶像崇拜に満ちています。それが、主の御目には「高慢」と映るのです。そして彼はこう言います。私には想像もできません。なぜなら、サウルはこの後堕ちていくからです。彼はもう二度と元には戻りません。王国は彼から引き剥がされ、ダビデという名の少年に与えられることとなります。彼はサウルにこう言います。

「あなたが主のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」—22 節—

もっと良い説教の締めくくり方があればいいのですが、ありません。これは自分自身にも言えることですが、どうかこのことを知っておいてください。おそらく私たちの責務は、主の側における、私たちの頑固さや不従順さを再検討し、聖霊に再び心を探ってもらい、私たちの中に邪悪な、頑固な、反抗的な事がないかどうかを見ていただく事です。私たちが神を知り、神を愛し、神の声を聞くことを妨げるもの全てです。繰り返しになりますが、神が怒りに満ちていたり、私たちに執念を燃やしていたりされるとは決して思わないでください。彼はとても優しく、私たちのために思っていることです。それは医者に行って「あなたは癌です。」と言われるようなものです。取り除く必要があります。でないと死んでしまいます。だから、医者に切り開いてもらって、私たちが殺す可能性のあるものを取り出してもらおうのです。

神の御言葉はどんな両刃の剣よりも鋭いのです。（ヘブル 4:12 参照）

それは私たちの人生にある癌の罪を、私たちが殺す前に取り除くための、霊的な手術を行う外科器具と捉えてください。

最後に一つ。今日は「最後に、、、」をなかなか上手く使えましたね。これで最後です。これで全体が繋がると思います。サウルが最終的にどのような死に方をするか知っていますか？ それは、アマレク人の手によってです。よく考えてみてください。彼はアマレク人に滅ぼされる前に、アマレク人を徹底的に滅ぼすように命じられたのです。そしてそれは、御霊がこんにち彼の教会である私たちに仰ることです。

「あなたの人生にある罪のアマレク人を、あなたを滅ぼす前に滅ぼしなさい。」

もし、サウルが主の命令に従っていたら、結果は完全に違ったものになっていたでしょう。しかし彼の人生は、神が滅ぼすように命じられたまさにその者の手によって、悲劇的な終わりを迎えます。それが神の恵みと憐れみです。それが私たちがこんなにも愛してくださっている神の愛なのです。私たちが滅ぼすものから守ろうとしておられるのです。ご起立ください。祈りで締めくくりたいと思います。その前に、賛美チームが上がってきます。これが、御言葉を学ぶと起こることですよね？ このようなものを飛ばすことはできません。皆さん信じてください。もし私が局所的な教え方なら、聖書の一節一節、一行一行を説明するような教え方をしていなかったら、この章を話すことは決してなかったでしょう。冗談でしょう。でも、いいですよ。難しい御言葉です。さて、最後の最後にもう一つ福音書の中で、イエスが教

えておられる場面があり、それは難しい教えです。大勢の人が彼から離れて行きます。イエスは弟子たちに目を向け、

「あなたがたも離れて行きたいのですか」と言われます。(ヨハネ 6:67)

私はペテロ が大好きです。ペテロは答えます。

「いいえ。私たちはだれのところに行けるでしょうか。難しい教えですが、あなたは永遠のいのちのこたばを持っておられます。」

(ヨハネ 6:68 参照)

それが何を物語っているのか分かりますか？ 彼はそれについて考えたのです。つまり、イエスが教えておられる場面を想像してみてください。本当に本当に難しい教えです。説教の途中で人々が、立ち上がって離れて行くような感じです。皆さんそれをされません。しないでくださって、どうもありがとうございます。私はそれをとても個人的に捉えます。誰かが(説教の途中で) 帰ってしまうと、午後帰宅して泣き崩れてしまうんです。しかし、それが彼らがやったことなのです。途中で離れて行き、帰って行き、逃げて行ったのです。基本的には全員出て行きました。そして、ペテロは彼らが去っていくのを見て、「みんな離れて行っている…」という感じです。「私も帰りたいたい…」と思ったのです。イエスもそれを分かっておられたので、イエスは彼に尋ねられたのです。しかし彼の名誉のためにいうと、ペテロは、「それは難しい教えですが必要です。」と言いました。難しいけど、良いことだと思います。聞きたくないかもしれませんが、聞いておく必要があります。そして、自分自身に問いかける必要があります。祈りましょう。天の御父よ、本当にありがとうございます。厳しい教えです。でも、良いことです。主よ。

聖霊が私たちの心を探ってくださいることを感謝します。主よ、それはあなたが私たちをとても愛して下さっておられるから、私たちが傷ついたり、害を被ったり、間違いなく滅ぼされるようなことは望まれないことを知っています。ですから主よ、私たちは頑固さ、プライド、高慢を手放し、あなたに全てのアクセスをお与えします。御心のままになさってください。私たちはあなたの御手の粘土です。陶芸家のあなたが、あなたの御心のままに私たちを成形し、私たちを削り形作ってください。待ち望む間、私たちは委ね、従い、じっとしています。イエスの御名の下に。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7